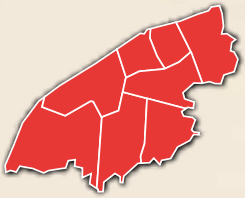

Niigata-shi

市全域

P243-P248

新潟市民の文化遺産（ぶんかいさん）
ガイドブック

無形文化遺産

越後追分（えちごおいわけ）

市全域

越後追分の源流は、信州・追分・沓掛・軽井沢の浅間3宿あたりで唄われていた馬子唄とも小室節ともいわれ越後に伝来してからは、船頭の労働唄として独特の節に発展しました。やがてその節は北前船の船頭衆に運ばれ、松前・江差の追分節に変化していきました。越後追分保存会は越後民謡中興の祖、故鈴木節美（昭和50年勲五等瑞宝章受章）の直門にあたります。踊りは節美師匠により船頭衆の働く所作を振付け作られたものです。

市伝承芸能保存会、新潟市民謡連盟の門下生が中心となり、継承して現在も唄い踊られています。

推薦団体　新潟市伝承芸能保存会

無形文化遺産

新潟松坂（にいがたまつさか）

市全域

信濃川、阿賀野川の二大河の河口を持つ新潟市は、古くから港町として栄えるとともに、人や物、情報の行きかう場所として様々な芸能が持ち込まれました。それらは、新潟市の歴史や風土に育まれ、現在も人々の暮らしの中で数多く伝承、保存されていますが、その1つに「新潟松坂」があります。伊勢の松坂が、越後に入り各地に独特のうたい方に変化し伝わってきたと言われている松坂節も、盆踊り形式（賀茂松坂、新津松坂など）と祝い唄形式（頚城松坂、魚沼松坂など）の二通りあり、新潟市に伝わる「新潟松坂」は、祝い唄形式の松坂節です。「新潟松坂」は、故鈴木節美師匠（1898～1988）が伝えたもので、昭和41年（1966）「新潟松坂保存会」が設立され、昭和62年（1987）に新潟市伝承芸能保存会に加入し、現在その門下生が中心となり継承して現在も唄い踊られています。

推薦団体　新潟市伝承芸能保存会

無形文化遺産

にいがたふなかたぶし

新潟船方節

市全域

幕末から明治にかけて、日本海を行き交う北前船の船乗りによって持ち込まれた島根県の出雲節に、新潟県の新保広大寺くずし（越後口説）や甚句などが影響し合って変化をしたもので、昭和の初め頃まで新潟の花柳界で盛んに歌われたと言われています。昭和の初めに鈴木節美によって新潟船方節と命名されましたが、歌詞は八百屋お七や梅口説きなど、さまざまなものがあります。今日では地元の節美会など民謡団体の人々によりわずかに伝承されています。この唄を基にして秋田県男鹿市の民謡歌手「森八千代」が、秋田船方節を完成させたと言われています。

推薦団体　新潟民謡節美会

無形文化遺産

新潟おけさ

にいがたおけさ

市全域

通説では、江戸時代九州地方で唄われていた「ハイヤ節」が北前船に運ばれて、越後の「おけさ節」になったと言われています。その「おけさ節」の中でも地元新潟地方で根を下ろしたおけさ節が『新潟おけさ』であり、以前は「越後おけさ」とも言われていたものを『新潟おけさ』として唄い広めたのが故鈴木節美（明治31年生）であり、数々の全国民謡大会やイベントで紹介してきました。

時を同じくして地元花柳界でも、お座敷調『新潟おけさ』として出し物に取り上げ、全国から来た客に披露して全国に知られるようになったと言われています。

『新潟おけさ』は、他のおけさ節と比較して繊細であり、間の取り方が特徴的な難しさがあり、唄うにはかなりの技量と訓練が必要とされます。

踊りは、新潟花柳界「市山流」の『新潟おけさ』の振り付けを参考に改良したものと言われていますが、日舞にはない足を上げる所作などがあり定かではありません。

古くは、江戸時代より幾多の先人達によって地元新潟で唄われ続けて現在まで伝えられています。

推薦団体　新潟民謡節美会

無形文化遺産

万代太鼓（ばんだいだいこ）

新潟市中央区、東区、西区、他

昭和43年（1968）に新潟まつりにお招きした「片山津太鼓」の好評を受け、新潟商工会議所がまつりの活性化策として新潟の和太鼓を創設し、その名を「万代太鼓」と命名しました。新潟地震にも耐え市民に愛されてきた美しい6連のアーチ、市のシンボル万代橋（現在 萬代橋）にあやかり、未来への発展を祈念して命名されました。曲調は片山津太鼓を手本に新潟らしさを創造し、新潟甚句の軽快な響きの樽砧を組み入れ、また近郊の祭り囃子や民謡「佐渡おけさ」等を篠笛に採り入れたオリジナリティの強い、軽快な曲想が主体となっています。

最初に結成された飛龍會が普及に努め、幼稚園、小中学校、地域団体、視覚や聴覚障がい者の団体、企業団体等、現在21団体が活動し、これまでにアメリカ、中国、ロシア等へ姉妹都市親善公演や国内各地への観光PRに同行、また新潟まつりをはじめ地域イベントや施設慰問等幅広く活躍しています。

＜開催時期＞
毎年８月上旬に開催される新潟まつりには全団体が参加

推薦団体　新潟万代太鼓振興会

memo